

長野県南部のハナノキが自生する湿地の保全活動

はなのき友の会

北沢あさ子・長野康之・大熊純子・下平春夫・岡田いく代・清川博明・
古松隆明・椎原澄・椎原幸子・筒井和彦・仁木洋子・八木充生・八木和恵・他

Conservation of Japanese Red Maple in Wetlands and Other Natural Habitats of Southern Nagano Prefecture.

Japanese Red Maple Conservation Group

Asako Kitazawa, Yasuyuki Nagano, Sumiko Okuma, Haruo Shimodaira,
Ikuyo Okada, Hiroaki Kiyokawa, Takaaki Komatu, Kiyoshi Shiihara, Satiko Shiihara,
Kazuhiko Tutui, Youko Niki, Mitio Yagi, Kazue Yagi, etc.

ハナノキ(カエデ科ハナノキ節)は長野県南部、岐阜県南東部、愛知県北東部の極めて限られた湿地に分布する日本固有の落葉高木である。ハナノキは自生地での個体数が減少し、現在、環境庁版レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。ハナノキは雌雄異株であるので、雄木と雌木の開花個体が近くに存在しないと種子を作ることができない。長野県の自生地の大部分は、南部の飯田市山本と隣の下伊那郡阿智村の4ヶ所に集中しているが、そこでは雌木が34本程度しか確認されていない上に、既にその中に6ヶ所のゴミ処分場があり、他に県の第三セクターによる処分場計画が進んでいる。また、この10年間にはゴルフ場、道路、埋め立て計画があがり保護活動を行なわなければ、ほとんどを失ってしまうところであった。今しっかりと保全策を立てなければハナノキの種としての存続が危ぶまれる。はなのき友の会は、ハナノキとハナノキが生育する湿地を後世に残すことを目的として、1993年から様々な活動を行ってきた。2000年10月からはPNファンドの助成を受け1) 長野県南部のハナノキ自生地4ヶ所の毎木調査と個体位置図作成、2) 自生地の環境調査、3) 実生と幼木の生存率・成長率調査、4) 充

実種子率調査、5) 自生地の保全管理作業を行ってきた。これらの活動によりハナノキの生態を把握して同種の保全を検討する際の基礎的な情報を得ること、さらに今ある自生地を保全管理することを目的とした。

胸高直径5cm以上の267本(株)のハナノキについて、毎木調査と詳細な個体位置図を作成することができた。ハナノキ実生の生存率は調査を行った4ヶ所の調査地のうち1ヶ所ではおよそ80%と高かったものの、他の3ヶ所ではおよそ10%と低かった。生存率が高かった1ヶ所はギャップの下に設けた調査地であり、日照量が生存率に影響を与えたと考えられるが、相対照度等の環境要因との関係は明らかでなかった。3ヶ所の調査地で採取した種子の充実種子率は、昆虫または鳥に食害されたと思われる種子を含めるとおよそ80%であり、種子形成は正常に行われていると考えられた。また、毎月1回の割合で地主の協力を得てハナノキ自生地のゴミ拾い、竹やぶ払い、つる切り、崩壊地の土留めなどの保全活動を行った。現在残されたハナノキの自生地は非常に貴重なものなので、何としても優先的に残し、積極的に保全していく必要がある。

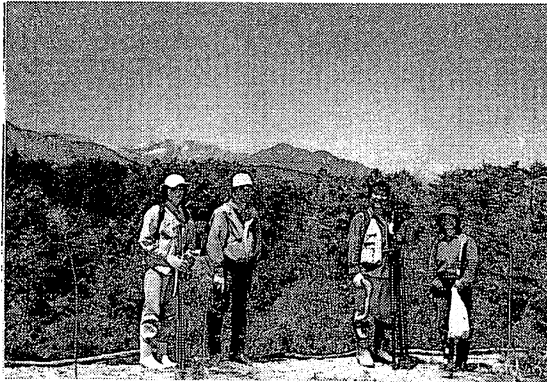
1. ハナノキのし果（羽の付いた果実：4月下旬）



2. ハナノキ自生地内のミカワバイケイソウ



3. ハナノキ調査隊



4. ハナノキ個体位置図作成時の調査風景



5. ハナノキ自生地にはびこった竹やぶ払い



6. 山本小学校3年生と、崩壊地の土留め作業風景

